

# 向 畑 C 遺 跡

## 発 掘 調 査 報 告 書

1990年

山 形 県  
山形県教育委員会

むかい はた  
向 畑 C 遺 跡  
発 掘 調 査 報 告 書

平成 2 年 3 月

山 形 県  
山形県教育委員会

## 序

本報告書は、山形県教育委員会が、山形県土木部の委託を受けて平成元年度に実施した、主要地方道山形・南陽線緊急地方道路整備事業にかかる「向畠C遺跡」の緊急発掘調査の結果をまとめたものです。

向畠C遺跡の所在する南陽市小滝地区は、市を貫流する吉野川上流の山間地帯にあり、村山地方と置賜地方を結ぶ「小滝街道」の分岐点として古くから栄えた地域あります。今回の調査は、中世以降盛んになった白鷹山を中心とする修驗道に係わるとみられる塚が主な対象となりましたが、塚の下層からは縄文時代前期・後期の土器、石器が出土し、この地域の歴史の厚さを再認識するに足る好資料が得られました。

これらの文化遺産は、私達の祖先が語りかけてくれるかけがえのない歴史の証言者であります。この遺産を保護し、未来に継承することは、私たちの大切な責務といえます。

近年、県民福祉・県経済の向上を目的とする開発事業に伴ない、埋蔵文化財と開発との係わりも増加の傾向にあります。これらの間には、今なお多くの問題が介在していることは、現実問題として、おおきな課題を与えられていることになります。山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」という立場から、ひとつずつ問題を解決し、今後も埋蔵文化財の保護と活用のため努力を続けていく所存であります。

終わりに、本調査に御協力いただきました山形県土木部・米沢建設事務所・東南置賜教育事務所・南陽市教育委員会・南陽市小滝地区・及び地元の方々に感謝申し上げるとともに、本書が埋蔵文化財に対する理解を深め、その保護・普及の一助となれば幸いです。

平成2年3月

山形県教育委員会

教育長 木場 清耕

## 例　　言

1 本報告書は、山形県教育委員会が山形県土木部の委託を受け、平成元年度に実施した「主要地方道山形・南陽線緊急地方道路整備事業」にかかる「向畠C遺跡」の緊急発掘調査報告者である。

2 遺跡所在地・調査体制は下記の通りである。

遺　跡　名　向畠C遺跡（山形県遺跡番号　昭和62年度登録）

所　在　地　山形県南陽市大字小淹字向畠七一1531他

調　査　期　間　平成元年10月2日～平成2年3月31日

現地調査　平成元年10月2日～平成元年10月20日（延べ14日間）

調　査　主　体　山形県教育委員会

調　査　担　当　山形県埋蔵文化財緊急調査団

調査担当者　主任調査員　佐々木洋治・名和　達朗

現場主任　黒坂　雅人

調　査　員　氏家　信行

事　務　局　事務局長　土門　紹穂

同　補　佐　斎藤　久子

事務局員　新関　絃子・長谷川　浩・高橋　春雄・永井　健郎

3 発掘調査にあたっては、山形県土木部米沢建設事務所・東南置賜教育事務所・南陽市教育委員会など、関係機関の協力を得た。

4 本書の作成は、名和達朗・黒坂雅人・氏家信行が担当し、執筆は1・2を氏家が、3・

4を黒坂が、5を名和がそれぞれ分担した。また挿図・図版等の作成には沢田恵美子・渡部由美子・加藤美佐子の補助を得た。

5 本書の編集は、安部実・名和達朗が担当し、全体については佐々木洋治が総括した。

6 現地調査での出土遺跡・記録類は山形県教育委員会が一括保管している。

7 現地調査、報告書作成にあたっては、つぎの方々からご指導とご助言を賜った。末尾ながら銘記して感謝申し上げる。

茨木光裕、吉野一郎、加藤稔、長沢正機（順不同・敬称略）

## 凡　例

- 1 今回実施した向畠C遺跡の緊急発掘調査は、昭和63年度及び平成元年度に実施した遺跡詳細分布調査の結果から、事業地区にかかる塚を対象として実施したものである。従って塚本体には遺跡番号を付していないが、トレンチ内から検出された遺構については発見順に一連番号を付している。本文他で使用した記号は以下の通りである。  
SK—土壤・SP—小ピット・ED—塚の周溝
- 2 遺物は各トレンチ及び層位順に取り上げることを基本とした。今回の調査で出土地点、標高を記録した土器（RP）は1点である。
- 3 本報告書の執筆基準は以下のとおりである。
  - (1) 挿図中に示された方位は、第2図遺跡概要図が真北、第3図塚平面図が磁北を示している。なお、トレンチ設定の基準とした南北軸線は、磁北に対しN-11°-Eの傾きをもっている。
  - (2) 第2図遺跡全体図は1/1,500、第3図塚平面図は1/150、第4図土層断面図は1/60の縮尺で採録し、各々にスケールを付した。
  - (3) 土器の拓影・実測図は1/3、RP1展開図は1/8、石器・石製品実測図は1/3の縮尺で掲載し、各々にスケールを付した。
  - (4) 図版中の遺物は、土器、石器・石製品とともに1/3の縮尺とし、右下（ ）中に記載した。ただし図版6-27・28については1/8の縮尺とし、右下（ ）中に併記した。
  - (5) 握図中通し番号協の注記は各遺物の出土地点・層位を示している。
  - (6) 本文中にある縄文原体等の燃りの表現は「山内清男（1979）『日本先史土器の縄紋』先史考古学会編」に依拠した。

## 目 次

1 調査の経過 .....	1
2 遺跡の立地と環境 .....	1
3 調査の概要 .....	2
4 遺構と遺物 .....	3
5まとめ .....	8

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図 .....	1
第2図 遺跡全体図 .....	2
第3図 塚平面図・調査区全体図 .....	4
第4図 調査区土層断面図 .....	5・6
第5図 出土遺物(1) .....	7
第6図 出土遺物(2) .....	8

## 図版目次

図版1 遺跡遠景・遺跡近景	
図版2 塚全景・作業状況・Cトレンチ完掘状況	
Dトレンチ完掘状況・Eトレンチ南壁土層断面	
図版3 Aトレンチ北壁土層断面・Bトレンチ東壁土層断面・北西区完掘状況	
SK1検出状況・SK1完掘状況・SP3検出状況・SP4完掘状況	
図版4 RP1出土状況・Bトレンチ北端集石	
図版5 塚完掘状況	
図版6 出土遺物	

## 1 調査に至る経過

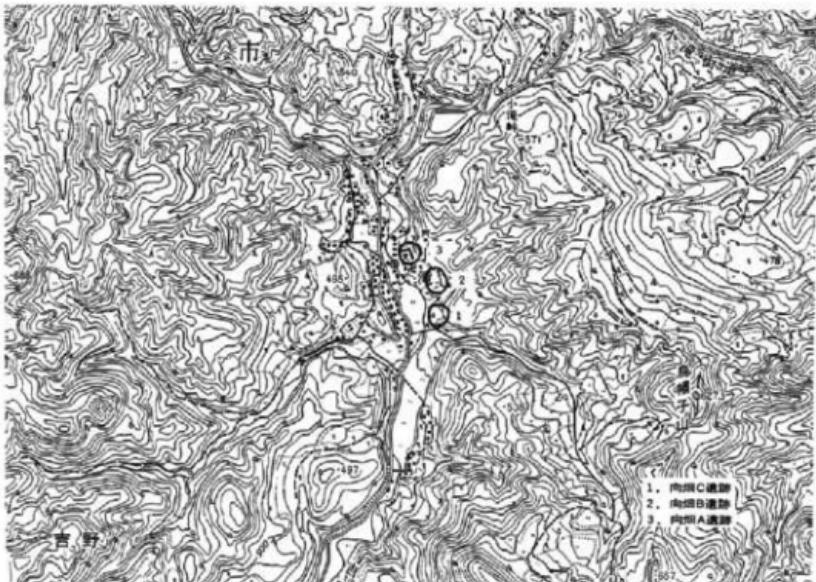
向畠C遺跡は、昭和12・13年頃に古墳時代の石棺等が発見され、その後、南陽市教育委員会が昭和58年6月と昭和60年4月に実施した市史編さんに伴う確認調査により、昭和62年に縄文時代の散布地、古墳、塚（伝経塚）として登録された（『南陽市史』考古資料編1987）。

この地に主要地方道山形・南陽線緊急地方道路整備事業が着工されることになり、本遺跡が事業に係る可能性が出てきたことから、山形県土木部の依頼を受けて、山形県教育委員会は昭和63年11月7・8日と平成元年8月5・21・22日の二度にわたり遺跡詳細分布調査を実施した。それをもとに、事業主体の山形県土木部米沢建設事務所と協議を行ない、経塚といまれる壇状の塚を中心とした面積約200m<sup>2</sup>を工事着工前の平成元年10月2日～平成元年10月20日の延べ14日間に記録保存のための緊急発掘調査を実施することになった。

## 2 遺跡の立地と環境

遺跡は南陽市を縦貫して南流する吉野川上流部東岸の向畠七地区内の山林・畑地内にある。向畠B遺跡の南東100mのところに位置し、標高430mの小段丘上に立地する。

本遺跡のある小滝地区は、古くから山形地方と置賜地方を結ぶ交通の要衝であり、向畠A遺跡（縄文時代晚期）や向畠B遺跡（縄文時代の散布地）そして、本遺跡の古墳の存在などは、往古からの文化交流を物語っている。



第1図 向畠C遺跡位置図 (S = 1 : 25,000)

### 3 調査の概要

平成元年8月21日、22日に実施した遺跡詳細分布調査の結果、今回の発掘調査は、路線内にかかる約1,700m<sup>2</sup>のうち、塹部分及びその周囲200m<sup>2</sup>について実施した。現地調査は平成元年10月2日から10月20日まで延べ14日間実施した。以下に現地調査の経過を略記する。

10月2日

現場事務所への発掘資材搬入。午後2時に関係者及び作業員出席のもと安全祈願のための銃入式を行う。その後調査に入り、試掘調査時の塹にかかるトレンチ（Eトレンチ）の埋土除去を行った。

10月3日・4日

塹全体図の作成及びトレンチの設定を行う。各トレンチは塹上にAトレンチ（東西8m

×南北2m）、Bトレンチ（東西2m×南北13.75m）をT字形に設定、また塹外周部には周溝確認のためC、Dトレンチを設定し、4日より掘下げに入る。

10月5日～19日

各トレンチの掘下げを実施する。掘下げは表土より手掘りで行い、各層毎に面整理を行い遺構検出に努めた。また塹西半及びBトレンチ東側を拡張し掘り下げる。この間写真、作図、レベリング等の記録作業を併行して実施。

10月20日

11時より調査説明会を開催、午後資材を撤収し調査を終了する。



第2図 遺跡全体図

#### 4 遺構と遺物

向畠C遺跡の塚は東西10m、南北22mの長方形プランの南西部分に約10m四方の張り出しを設けた平面形カギ形を呈する。塚上面は平坦に整形される。現状での比高は南辺で1m前後、北辺で50cm前後である(第3図)。今回の調査対象となった張出し部分は全面盛り土による構築であるが、地区外の東側5m付近ではボーリング調査の結果地山までの深さが約20cmであり、山裾と接する付近では切土により整形されている可能性がある。

張り出し部分中央付近の盛土の厚さは55cm前後あり版築は行われていない。盛土以下の3、4層はプライマリーな堆積層と思われ縄文時代の遺物を包含する。地山は塚西辺部で高くなってしまおり舌状の張り出しを利用して塚が構築された可能性を示唆する。また塚周辺部では地山が段状に下がるが、これは耕作による削平によるものと考えられる。塚外縁部分は一担地山まで掘り下げられている(第4図)。周溝はB・トレンチ北側で明瞭に検出されたが西側では判然としない。またBトレンチ南端でも段状の落ち込み及び集石を検出したが塚に伴うものか否かは不明である。盛土面での遺構は未検出である。

4層中からは土壙2基、ピット2基が検出された。いずれも覆土内からの遺物の出土はないが、塚構築以前のものとみられる。

今回の調査で出土した遺物は整理箱約3箱である。3・4層から出土した縄文時代の遺物が大半を占めるが、盛土中には縄文時代の遺物が若干混入している程度であり、塚にかかる遺物は出土していない。以下に出土遺物を略述する。

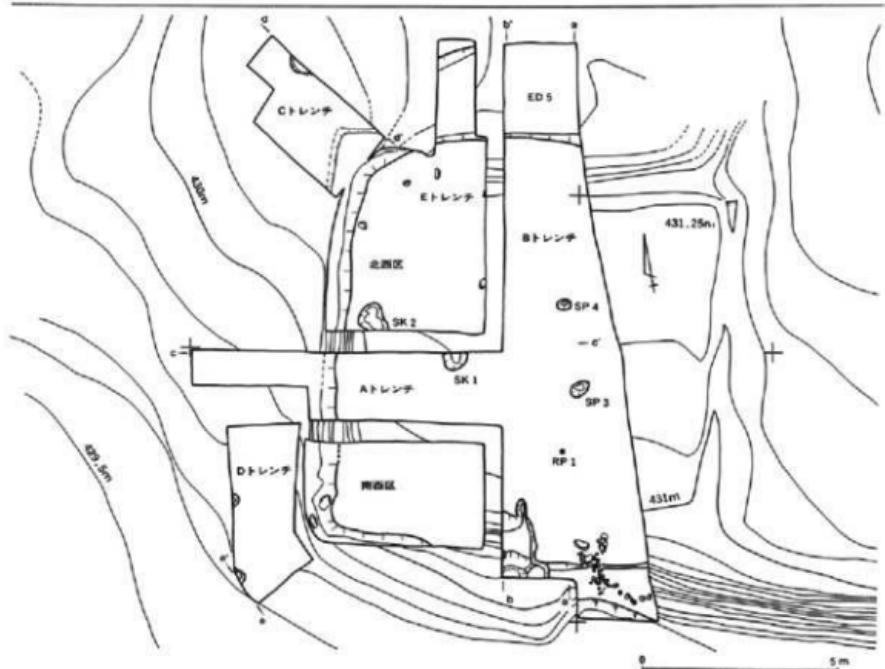
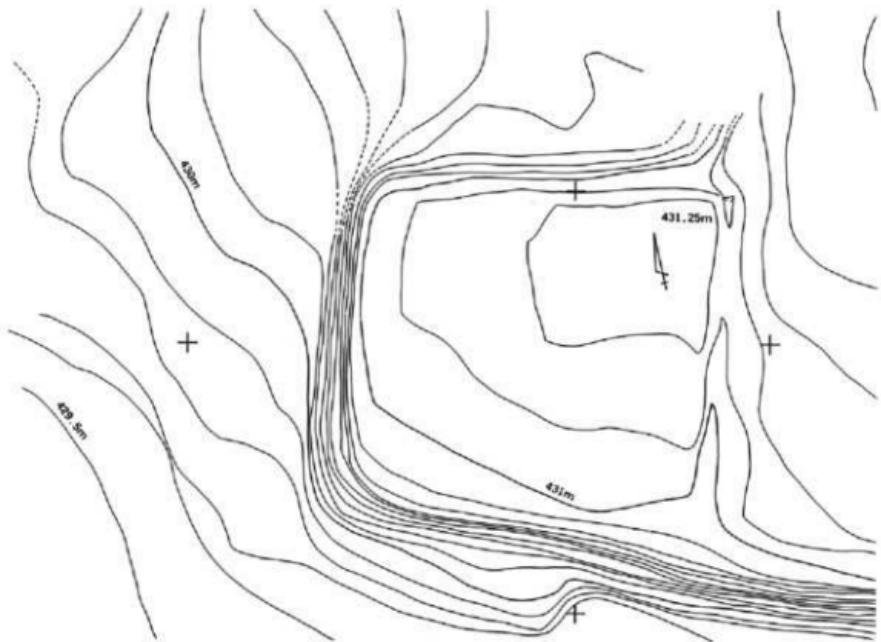
##### 〈縄文土器〉(第5図)

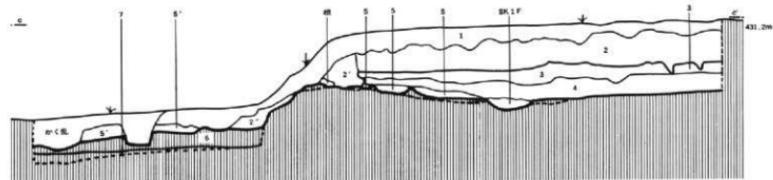
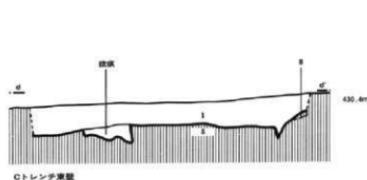
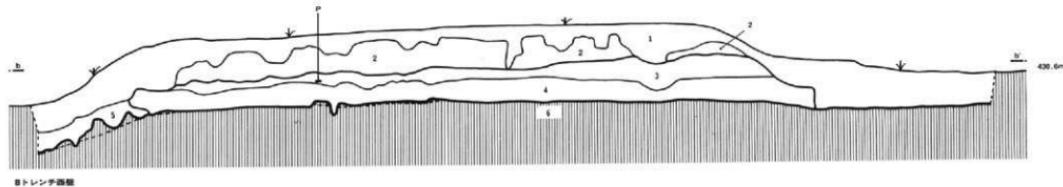
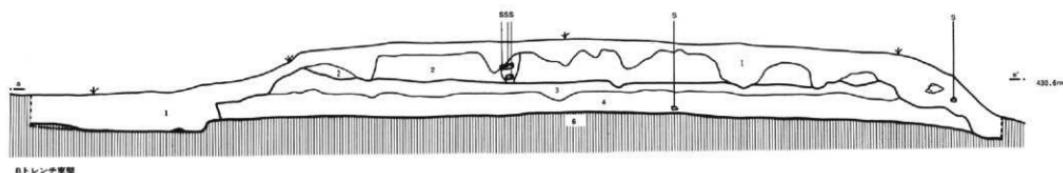
1類：胎土中に多量の植物纖維を含有するもの。Bトレンチ南半を中心にややまとまつて出土した。20は口径31cm、口縁部付近で若干内湾するがほぼ直線的に外傾する平縁の深鉢形土器である。口唇部は鋭角に整形される。口縁部の文様帶は棒状口具による短い沈線文及び2段R/I原体の側面圧痕文により構成され、三角形に残された部分の中心にワラビ手状側面圧痕が12箇所に施文される。口唇部及び地文との境界は縦位の短沈線文で区画される。地文は結束しないO段多条の羽状縄文である。器厚7mm、焼成は良好である。

2類：胎土中に纖維を含まないものを一括する。a. 沈線+磨消縄文により文様構成されるもの(3・4・7・8)。b. 口唇部に貼りコブをもつもの(18)。c. 櫛歯状工具による沈線文を施文するもの(10~14)。d. 地文のみのもの(1・2・6)。

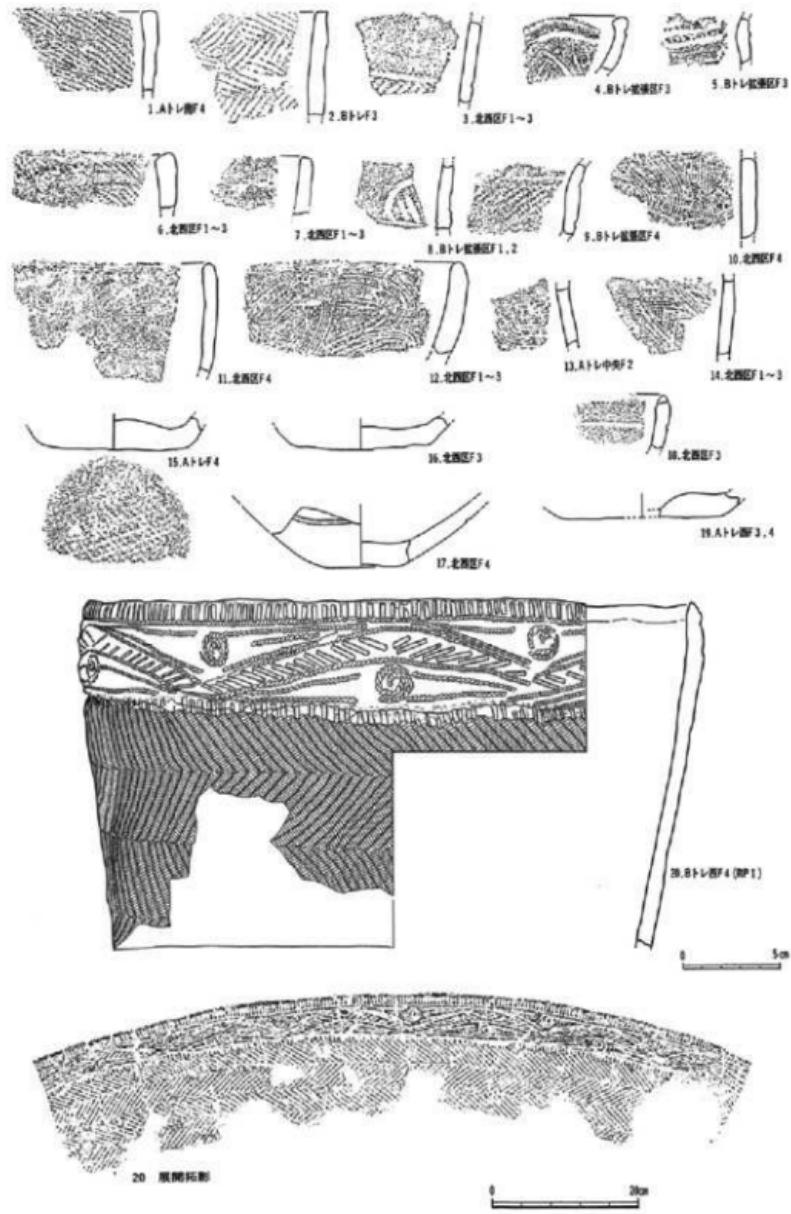
##### 〈石器・石製品〉(第6図)

先に実施した分布調査も含め本遺跡から出土した石器・石製品は、石斧3点(21~23)、二次調整のある剝片1点(24)、凹石1点(26)、磨石1点(25)の6点である。また、Aトレンチ4層上面より同一母岩の剝片が一括出土している(図版6-25・26)。

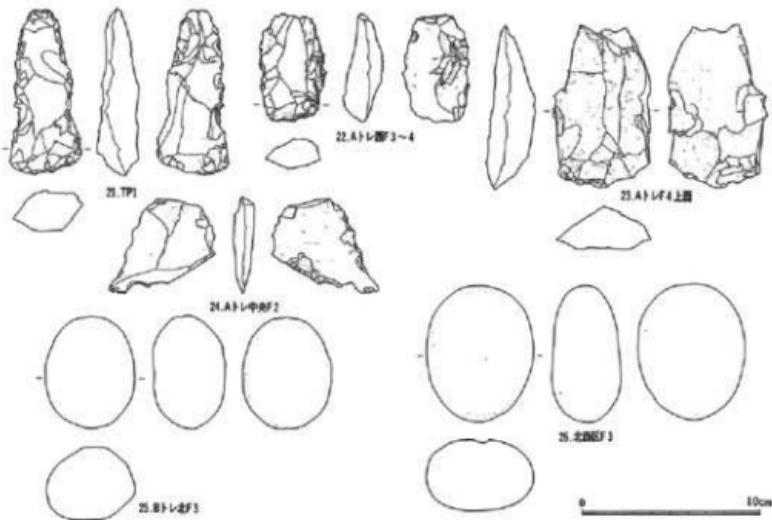




第4図 調査区土層断面図



第5図 出土遺物（1）



第6図 出土遺物（2）

## 5まとめ

今回の調査は、平成元年度主要地方道山形・南陽線緊急地方道路整備事業に係る緊急発掘調査である。調査期間は、平成元年10月2日～同20日までの延べ14日間である。発掘面積は、200m<sup>2</sup>で、試掘調査を踏まえ、伝経塚とされる塚を対象に行った。

塚は、東側の山裾からびる長方形プランと、その南西部に方形の張り出しを設けた平面形カギ形の平坦な高まりである。調査区域である方形の張り出し部に着目すると、古墳あるいは経塚の形態を呈することから、調査もそのことを想定に進めた。以下、要約する。

- 盛土を行って構築している。版築は、行われていない。
- 調査区域外の長方形プラン部分は、調査区境界から5m付近は20cm、山裾付近では切土によって整形されている可能性がある。
- 周溝状の溝は、北側で部分的にみとめられるだけである。
- 段上の落ち込みや集石については、塚に伴うものであるか不明である。
- 盛土面での遺構（主体部）や古墳・経塚に関連する遺物等は、未検出である。

以上により、古墳・経塚であるかの確認はできず、位置・形態から白鷹山の山岳修験に関する壇状の遺構である可能性が考えられる。

出土遺物は、土器の特徴により縄文前期初頭と後期中葉の時期のものである。

# 図 版



遺跡遠景（西から）



遺跡近景（西から）



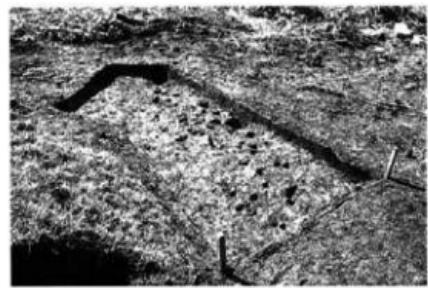
塚全景（西から）



作業状況（北西から）



C トレンチ完掘状況（東から）



D トレンチ完掘状況（北東から）



E トレンチ南壁土層断面（北から）



A トレンチ北壁土層断面（南から）



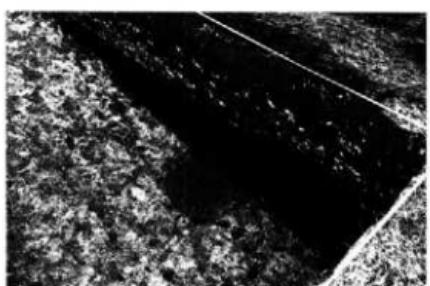
B トレンチ東壁北半土層断面（北西から）



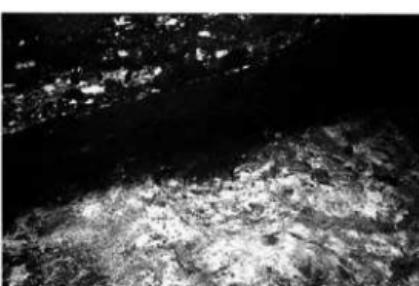
B トレンチ東壁南半土層断面（北西から）



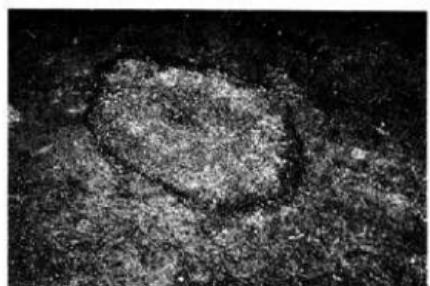
北西区完掘状況（北西から）



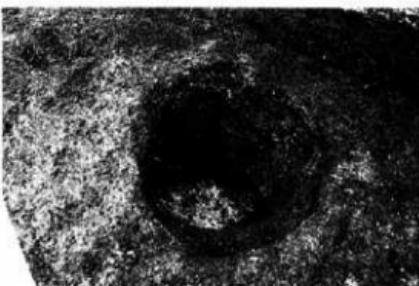
SK 1 検出状況（南東から）



SK 1 完掘状況（南西から）



SP 3 検出状況（西から）



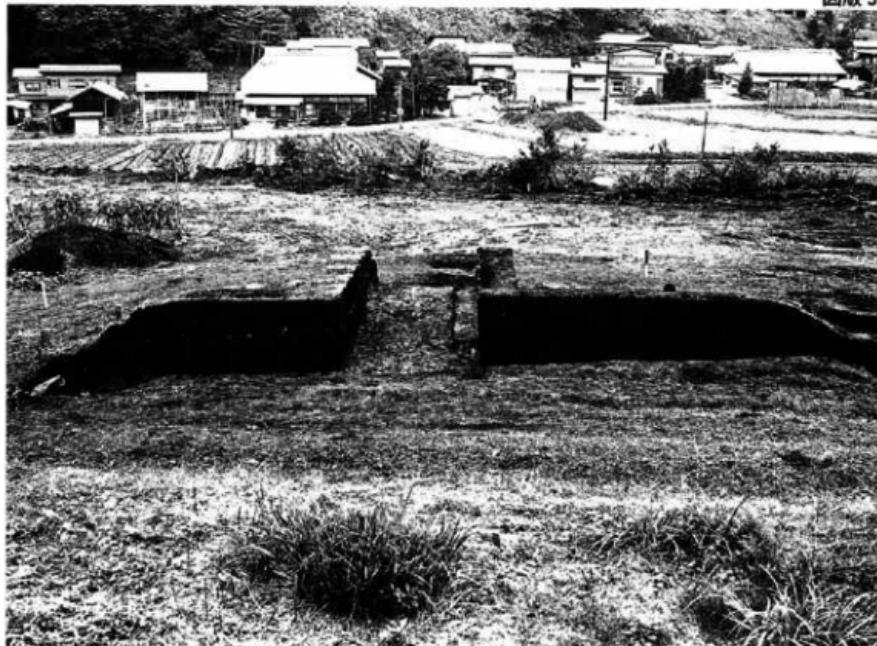
SP 4 完掘状況（南から）



RP 1 出土状況（西から）



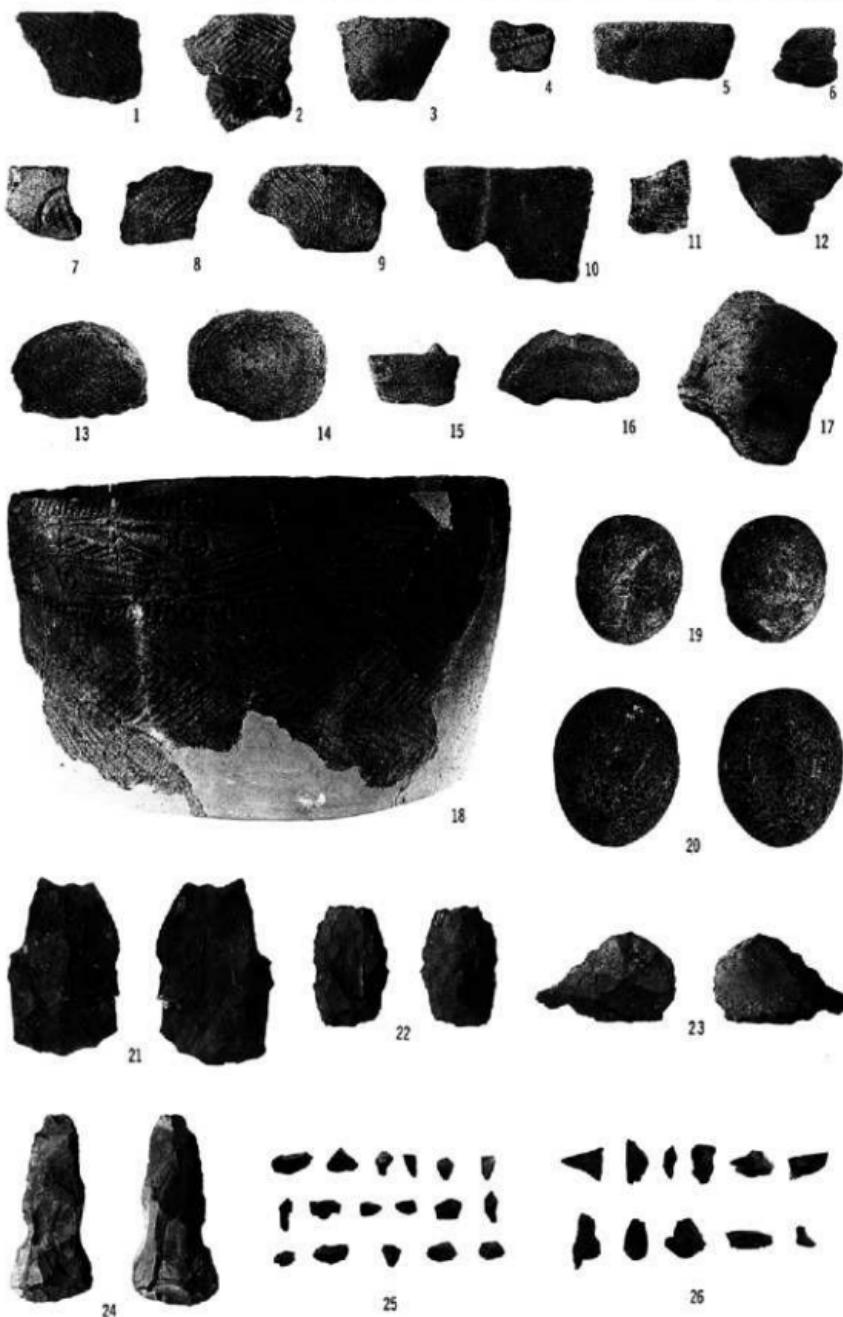
B トレンチ集石検出状況（南から）



塚完掘状況（東から）



塚完掘状況（北西から）



出土遺物 (1~24 S = 1/3 • 25•26 S = 1/8)

山形県埋蔵文化財調査報告書第156集

むかい はた

**向畠 C 遺跡  
発掘調査報告書**

平成2年3月15日 印刷  
平成2年3月20日 発行

発行 山形県教育委員会  
印刷 藤庄印刷株式会社